大正５年５月５日木藤精一郎創立

やまゆき会会報

平成 30 年新年号

明けましておめでとうございます

年頭にあたりまして、謹んで新春のお慶びを申し上げます。
旧年中に賜りました皆様のご支援ご協力に深く感謝申し上げます。

本年「やまゆき会」は創立102年目を迎えます。世の中は自然志向を背景とした多くの人達が、登山、ハイキング、ウォーキングと山に係わって活動しています。一方遭難事故も多く発生し、マスコミでも取り上げられ安全の確保が指摘されています。私達もこの事実を謙虚に受け止め、遭難事故を未然に防ぐため、しっかりとした安全対策と共に、日常的な自己管理が必要と考えます。必要装備の携行、歩行技術は無論、最も懸念されるのは、加齢による平衡感覚、バランスが著しく低下している事です。「昔取った杵柄」は通用しないことを自覚し、自身の体力、技術を過信せず、安全登山に努めてください。本年も事故の無い「やまゆき会」を目指し「楽しく・安全に」山行できる様に、会員各位のご協力をお願いいたします。

皆様方のご健勝と「やまゆき会」の更なる飛躍を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせて頂きます。

平成30年元旦

会　長　原田 佳忠

例　会　報　告

鈴鹿山脈：　鎌ヶ岳（1161m） 中級Ｃ

11 月 5 日（日） 晴れ　担当:藤堂尚久　参加者:3 名

宮妻峡キャンプ場から入り、入道ヶ岳、鎌尾根経由で鎌ヶ岳登頂という、長丁場で一部難路ありというルートを当初予定していたが、そこに行く道路がかなり手前で通行止め、修復工事中とのことであった。また、四国石鎚山や南アルプス鳳凰三山で共にガッツリ歩いた方々の一部が参加者という少数であり、予定を大幅に変更し、御在所岳側から登ることにした。遠くからでもよくわかる鈴鹿のシンボル的鋭鋒の鎌ヶ岳、登頂ルートは多数存在するが、今回は、比較的穏やかな長石尾根経由、紅葉を楽しみながら鎌ヶ岳を目指す①中級グレードの山行にした。

湯の山温泉最奥部に入るも駐車場は満杯、少し戻り駐車スペースを見つけ、装備を整え長石谷登山口に向かった。登山開始後すぐの分岐で長石尾根方面に進む。深い樹林の中、狭い岩の間を通り抜けたりしながら急登が続くが、やがて尾根歩きとなり展望が開けてくる。所々で麓から頂まで紅葉している御在所岳が見え何度も振り返る。弥一ヶ岳で一息つく。独特の尖った山容の鎌ヶ岳が姿を現す。2つの三ツ口谷分岐を過ぎるとザレ場の急登にさしかかり滑りやすく、慎重に歩を進める。山頂直下には、これまで黄葉が目立っていた道筋に鮮やかに紅葉が広がっている。尾根上では登山者と行き交うことなくやがて頂上に到着した。広くはないが、一角には祠が祀られ、山頂にはいろいろなルートで登って来たであろう人々で大賑わいであり驚いた。この山の人気を改めて知る。晴天、無風、遮るものなく四方眺望は良好、紅葉も美しい。特に南方には、元々、通過予定の鎌尾根の険しい稜線や入道ヶ岳をはじめとする鈴鹿の峰々が薄く霞んで見える。景色を堪能、居合わせた方々と会話もはずみ、食事、のどかなひと時を過ごした。

武平峠へはいきなりガレの急下り、登山道一部に崩落個所があり迂回路である。以降は概ね緩やかな道であり 40 分程で武平峠に到る。武平峠から駐車スペースまで、R477・鈴鹿スカイラインに沿って登山道があり、ススキや紅葉した木々を見ながら戻ってきた。10 月に 2 つの台風があり、多くの山で被害を伝え聞くも、こちらではそうした荒れているという感じはなく、快適な登山の 1 日を皆で過ごせました。

コースタイム

長石谷登山口(8:50)～長石尾根分岐～弥一ヶ岳(9:40)～三ツ口谷分岐～鎌ヶ岳(10:55～11:40)～県境尾根道～武平峠(12:25)～長石谷登山口(13:40)

生駒金剛和泉：矢田丘陵北陵から東山　初級 B

11 月 5 日（日） 晴れ　担当：疋田正紀　参加者：28 名

近鉄東生駒駅前に集合。コース説明をした後、住宅街を通り緩やかな坂道を登り椚峠へ。衣服調整と準備体操をして、矢田丘陵の尾根筋を登る。いきなり急登である。ドングリの道と標示されているナラやクヌギ等の多い樹林帯で、所々黄紅葉が見られる。アップダウンを繰り返しながら、椏木山にある 88 箇所巡りの地蔵さんに挨拶して室ノ木峠の弘法大師堂に参る。ここから尾根筋の矢田山遊びの森遊歩道へ入る。直後にたわわに実った柿の木々が眼に飛び込む。晩秋を感じる風情である。しばらく歩き子供の森への分岐点の子笹の辻にて昼食。

昼食後なだらかな遊歩道を歩き、本日の最高峰の矢田山(340m)基準点を確認した後、まほろば展望休憩所へ。奈良方面の展望が良好である。さらに矢田山展望台にて生駒方面の展望を楽しんだ後矢田峠へ。しばらく遊歩道を歩いた後、元山上口・東山駅方面への脇道の細道へ入る。路は荒れていて慎重に歩む。東山（328.7m)にて三角点を確認後休憩。周囲は木々が茂り展望はあまり良くない。先日の台風の影響で所々倒木で道が塞がれていたが、一気に下り住宅街を経て近鉄東山駅前にて解散。

紅葉には少し早かったが、静かな散策道で、適度に汗を流す快適な山行であった。

コースタイム

近鉄東生駒駅前(9:20)～椚峠(9:50)～室ノ木峠(11:20)～子笹の辻・昼食(11:45～12:20)～まほろば展望休憩所(12:45)～矢田峠(13:00)～東山(13:45)～近鉄東山駅(14:30)

京都西山：　太閤道　初級 B

11 月 11 日（土） 晴れ　担当：諸橋勝彦　参加者：11 名

室内例会の事前山行として、今日はいつもの太閤道コースの半分を歩くことにする。

夜中に降っていた雨も上がり、青空が出ている JR 島本駅に11名の参加者が集合、今日のコース説明後すぐに出発する。名神高速の高架下、消防署前を通り若山神社へと。境内は紅葉が始まっていてそれ

を楽しみながら小休止。その後太閤道の道標に従って山道に入るが、今日唯一の難所で急な段々道がしばらく続く。ここを上り切り椎の森からゴルフ場に沿って歩を進め、四つ辻を経て展望台に。三川合流地点や周囲の風景を眺め、それから若山三角点に行く予定にしていたが時間も超過しており、諦めて途中から下山する事にする。

下り道は雨後で滑りやすくなっていて、鉄塔からは急な下りで足元に注意しながらゆっくりと下っていき一時間後に竹炭小屋、島本高校横に達する。山道も終わり島本町ふれあいセンターはもうすぐ、平地にある四等三角点を通り終点にゴール。

昼食後、一旦解散し午後からの室内例会に備える。

コースタイム

JR 島本駅(9:05)～若山神社(9:35～9:40)～椎の森(10:00)～四つ辻(10:25)～展望台(10:40～10:45)～鉄塔(11:05)～島本高校(11:40)～四等三角点(11:50)～島本町ふれあいセンター(12:00)

室内例会　島本町ふれあいセンター

11 月 11 日(土)　晴れ　担当:各委員会　参加者:23 名

島本町ふれあい会館で 13 時より室内例会を開催。菅生例会委員長の冒頭挨拶の後、各委員会担当のプログラムが進行した。(　　)は担当者、敬称略。

1. 山域と地形図(例会委員会:菅生佳余子)

山行目的地の山域の名称は原則として、中学校社会科地図(帝国書院)、日本山岳会編『新日本山岳誌』(ナカニシヤ出版)に掲載の「日本の山地・山脈」図に準拠する。それにより全国どこの人が見てもおよその地域が理解できる。

2. 読図の必要性について(例会委員会:北川隆史)

午前中のハイキングのコース記述を見て各自、地形図の上に線を引いたり、等高線から谷と尾根を読み取る練習などを行って、地形図に慣れ親しむことの重要性を確認した。

3. テーピングで快適登山(例会委員会:松川元信)

キネシオテープは筋肉をサポートし関節を軽く固定することにより、疲労を抑え「快適に歩く」ためのもの。脚にテープを貼って見せる実演を行った。実際に山行で試したが、汗や水濡れへの耐性にも優れていることが分かった。

4. 総務委員会について(総務委員会:浜崎邦男)

総務委員会の業務内容、忘年会の予告、来年 4 月 7 日、8 日のチャレンジ登山支援活動の協力要請、などについて説明された。

5. 会報表紙写真の公募について(会報発行委員会:浜崎邦男)

会報表紙に掲載する写真を例会に参加した会員から広く募ることの意義について説明された。

6. スズメバチ対策(会報発行委員会:岸本眞理)

9 月に和佐又山で発生したスズメバチ事故に関する某山岳会の報告文を全員で輪読、事故の教訓についてグループで話し合った。ハチ襲撃の際、姿勢を低くして来た道を戻ること。衣服は黒っぽい色を避け、黄など明るい色がよいことが確認された。

7. 広報委員会の活動について(広報委員会:原田佳忠)

広報委員会は平成 25 年に発足、それまで井上さんの私的なホームページだったものが公式ホームページとなった。公開ハイク案内の新聞への掲載依頼、会員募集チラシ、会旗や腕章の作成など、様々な媒体で対外的に会の存在をアピールしている。

8. 意見・要望

次の 2 点が要望として挙げられた。

(1)遠隔地への宿泊山行の企画は、健脚向きだけでなく、より多くの会員が参加できるレベルの例会も希望する。

(2)石宝殿の記念植樹ケアの今後について方針を明確にする必要がある。

最後に集合写真を撮影後、16 時過ぎに解散した。

京都一周トレイル： 北山東部(比叡山～大原) 初級 C

11 月 12 日(日)晴れ 担当:北川 隆史 参加者 18 名

叡山電鉄出町柳駅 9 時 22 分発八瀬比叡山口行きの電車は超満員、この大混雑のために八瀬比叡山口駅の電車到着から 5 分以上もかかってようやく改札前に全員が出そろった。予定していた 9 時 45 分発のケーブルはあきらめて 10 時発に乗車。ケーブル比叡駅でトイレやミーティング、体操を済ませて出発した。

スキー場跡の枯れたススキの群落を背景に隊列の写真を撮ってもらったり、紅葉に歓声をあげたりしながら広い山道を進むとすぐに、京都北山の山々から比良山系までが展望できるスポットに到着。これから登る横高山が紅葉をまとってきれいに見える。延暦寺の拝観料徴収所でハイキングのための通過である旨断って、釈迦堂など西塔境内に入る。ドライブウェイの下をくぐるトンネルを抜けると樹林帯を行く山道となる。昼頃になったので、山道からそれてドライブウェイを渡り、峰道駐車場脇にそびえる巨大な伝教大師最澄像の付近で昼食とする。ここは琵琶湖方面の展望が広がるスポットだ。

山道に戻りドライブウェイに並行して

北へ向かう。この道は「回峰行道」と地図にある。玉体杉のピークを過ぎて鞍部に下ると、東海自然歩道は横川方向へとそれていくが、我々が進む京都一周トレイルは眼前にそびえる横高山の急斜面を登っていく。木の根がはびこる急登をがんばること 10 分で横高山頂上(767m)に到着。小休止して広い山腹を下り再び登り返すと水井山(△ 793.8m)、本日の最高峰である。ときどき聞こえる鐘の音は横川のお堂か。アップダウンを繰り返しながら稜線を行く間に、10 月の台風 21 号によると思われるいくつもの倒木に進路を阻まれる。東海自然歩道が再び合流してくると間もなく仰木峠で、琵琶湖側から登ってくる山道と交わる。歩きやすい山腹道となり、やがて京都一周トレイルは左折してボーイスカウト道と呼ばれるコースとなる。我々は京都一周トレイルと別れ、大原に向かう東海自然歩道を引き続き辿ることにする。間もなく山道は谷の源頭部に合流し、沢中を下降するようになる。決して歩きやすい道ではないのに加えて、例の台風による倒木が次々に現れ、迂回できずに乗り越えたりくぐったりのジャングルジムで時間を取られ、予定より少々遅れて 15 時 50 分にようやく大原の集落にたどり着いた。

バス停まで来てみると大勢の行楽客が列を作っており、2台待ってようやく3台目の京都駅行きバスに乗車した。

コースタイム

ケーブル比叡駅(10:25)～釈迦堂(11:25～11:35)～最澄像(11:55～12:25)～玉体杉(12:50)～横高山(13:12～13:20)～水井山(13:45～13:50)～仰木峠(15:10)～大原バス停(16:05)

京都北山： 愛宕山　中級 C

11 月 19 日(日) 晴時々曇り 一時雪 担当:藤井眞紀子 参加者21名

午前9時集合。JR 保津峡駅には、さすがに紅葉シーズンということで珍しく多くの登山者で賑わっていた。やまゆき会のメンバーも20名の方々が集まって下さった。

初めてのリーダーを務めさせて頂くので緊張しながらも、コース説明、準備体操の後、最後尾を藤堂さんにお願いして出発した。登山口から尾根に出るまで約20分の急登。ゆっくり、ゆっくりと歩を進める。全員が登り終えた所で衣服調整をする。ここからは気持ちの良い尾根歩きだ。紅葉した木々も大分葉を落とし、周りの山々が良く見える。少し尾根から下れば荒神峠。ここで休憩をとるが、夏場なら涼しい風が心地よいのだが今日は風が冷たい。ゆっくり休みたいところだが、身体が冷えそうなので全員の写真を撮って早々に出発する。

ここからは、表参道との合流地点まで登りが続く。表参道と合流後、水尾の別れにある小屋で休憩。小屋の表の寒暖計はマイナス3℃を指していた。風が身を切るように冷たい。小屋を出発してまもなく、先程までの青空から急に雲行きが怪しくなり、あられが降ってきた。見る見るうちにみぞれ交じりの雪に変わった。丁度、花売り場に着いたので、屋根の下で慌てて雨具をつける。黒門に着く頃には大分降ってきた。

愛宕神社下の屋根のある休憩所に全員何とか入ることが出来たので昼食とした。食事中、結構強く吹雪いていたが、出発する頃には殆ど止み安堵する。首なし地蔵まで快調に歩を進める。青空も見え始め、色とりどりの落葉を踏みしめながら秋の山道を楽しんだ。ここから旧登山道へ入る予定だったが、2週間前の下見の折、先月の台風や長雨のせいか倒木や落ちた枝などでかなり荒れていたので、しばらくは林道歩きに変更する。その後林道から旧登山道へ入る。入口は少し急な坂を下るがすぐにはっきりとした登山道へ出る。多少倒木や枝が道を覆っていたが、下見の時よりは手入れをされたのかずっと歩き易くなっていた。昔、林道が無かった頃は、首なし地蔵から穏やかないい登山道が続いていて、私のお気に入りの道だった。

予定していた時間より早く西ノ谷林道への分岐に到着する。その後しばらく林道を歩き、高尾へと指標がある分岐へ。後は神護寺を目指して道なりに下るのみ。眼下に神護寺の屋根が見えホッとする。途中思いがけず雪に降られましたが、皆様のご協力のもと無事に神護寺に到着することが出来ました。有難うございました。

コースタイム

JR 保津峡駅(9:15)～登山口(9:20)～ツツジ尾根(9:40)～荒神峠(10:25～10:35)～水尾の別れ(11:20～11:30)～黒門(11:50)～愛宕神社下広場・昼食(12:05～12:40)～首なし地蔵(13:25)～旧登山道(13:50)～西ノ谷林道分岐(14:20)～分岐(14:50)～神護寺(15:15)

北摂： 高代寺山（488.5m 二等△） 初級B

11 月 21 日(火)晴れ 担当:石田幸弘 参加者:16 名

・11月は雨が降ると暖かいが、晴れると放射冷却でぐんと冷え込む。このサイクルに順応できないと風邪を引くようだ。今日は晴れているが、気温はまずまず里山も紅葉が広がってきた。

・平日の山行にしては、参加者が多い。山池さんの紹介で 1 名が体験に来てくださった。城山の奥に 242.2m の三角点があるが、東に少し進んだ新光風台の横にも全く同じ高度の三角点がある。コース説明の時に寄り道の提案をして、体操で体をほぐした。

・山下の住宅街の北側にはこんもりとして色づいた城山がある。この城は一庫城とも言われ、天文10年(1541年)頃の戦で廃城となったようである。城跡への道は整備されて小さな社などもあるが、城跡は広い平地のみで説明看板は無い。
・城跡を東に下り、しっかりとしたハイキング道に出た。三角点の広場からは北側の木の間越しに知明湖・一庫ダムが見える。松や杉の小道には紅葉した雑木が点在し、樹林の道の展望は良くない。ところどころに南への分岐道があり、これは大昌寺に帰る道だろう。
・興味の無い人は休憩してもらって2つ目の三角点に向かった。やつと四等三角点を見つけて帰ったが少し時間がかかった。休憩が長すぎて、寒い思いをさせたようだ。
・昼食後、最後の登りは1時間がんばり、二等三角点に着いた。帰りは車道を引き返して高代寺に寄ったが、近くの良寛の歌碑は素通りしてしまった。
寺の裏側にはワナで捕獲して飼育中の熊がいた。寺からは少し遠回りの吉川城跡コースを下ったが良く踏まれたハイキング道だった。この前の2回の台風で倒れて道の両側に残る切断された巨木の年輪を横目で見て下った。
・小枝や木の葉が堆積して歩きにくい所もあったが、皆無事にクリアーしてくださった。
ありがとう。

コースタイム

能勢電鉄山下駅(9:30～9:40)～登山口(10:00～10:10)～城山・184m(10:25～10:30)～△大昌寺・242.2m(10:47～10:52)～△保ノ谷・242.2m(11:45)～新光風台公園(12:00～12:30)～登山口(12:40)～高圧鉄塔・#131　号(12:45)～高代寺分岐(13:20～13:30)～高代寺山(13:45～13:50)～高代寺(14:07-～14:12)～吉川城跡(14:37～14:45)～八幡神社(14:58)～能勢電鉄妙見口駅解散(15:10)

京都盆地：　宇治紅葉谷ウォーク　初級 B

11 月 25 日(土)　晴れ　担当:原田佳忠　参加者:22 名

紅葉の季節、宇治界隈の見学を兼ねてウォークを計画した。天候を心配したが当日は晴れで散策日和となる。駅前にて簡単にコース(予告では朝日山付近としていたが、下見の結果朝日山、仏徳山へ登る事とする)説明をし、準備運動後出発する。

宇治は、世界遺産として登録されている「平等院」が有名だが、宇治茶や、木曽義仲軍と源義経軍の宇治川の合戦でも

知られている。説明書を配布して宇治川を右岸、左岸と進む。「もみじ谷」の谷筋に沿い登り進んでいると、イロハカエデの群生があり、参加者から綺麗、綺麗との声が聞こえる。しばらく紅葉を愛でながら白山神社(1146 年加賀の白山神を勧請したのが始まり)に到着したが風情のあるお堂があった。急な石段を下り、白川の集落を抜けて宇治川へと下り、中の島公園で昼食とする。

朱色の朝霧橋を渡り右岸を進む。興聖寺(鎌倉時代の曹洞宗の寺院)は紅葉の名所であり、禅道場としての静寂な雰囲気と庭園を楽しんだ。寺の裏手より山道へと登り、朝日山に到着する。しばし展望を楽しみ、元の登山道に戻り、仏徳山(大吉山△ 131.6m)に到着する。展望は無く、祈りを込めた多数の小石が見事に積み上げられていた。再び元の登山道に戻り、宇治上神社 (世界遺産)と宇治神社に参拝する。

天候に恵まれ、晩秋の宇治の紅葉と、古き歴史に登場する寺院や神社をゆっくり堪能する事が出来た。京阪宇治駅にて解散。

コースタイム

京阪宇治駅(9:50)～吊り橋(10:25)～もみじ谷入口(10:40)～白山神社(11:08～11:15)～白川の集落(11:40)～中の島公園(11：55～12:30 昼食)～興聖寺(12:40～12:50)～朝日山(13:10～13:25)～仏徳山(13:40) ～宇治上神社(14:12～14:18)～宇治神社(14:22)～京阪宇治駅(14:40)解散

信楽大和高原： 山の辺の道・三輪山(467.1m) 初級C

11 月26日(日) 晴れ後しぐれ 担当:藤堂節子 参加者:17 名

近鉄桜井駅から町中の道を 2 ㎞程で大和川に架かる馬井手橋を渡ると山の辺の道の南の起点、海柘榴市跡に到着した。「仏教伝来之碑」横で準備体操とコース説明をする。集落の中を進むと海柘榴市観音堂、金屋の石仏、磯城瑞牆宮跡、平等寺を経て大神神社に到る。大神神社は正装した家族連れの参拝者で賑わい神職や巫女さんが多く、正月のようだった。大きな休憩所があり、ここで三輪山往復のためのエネルギーを補給した。三輪山へはその先の狭井神社で申し込みをする。そこで入山心得十箇条を守るよう神職からお話を聞く。「御神体山は登山ではなく登拝であり敬虔な気持ちで参拝すること。入山前には

各自お祓いし、参拝証の襷を首にかける。山中にトイレはなく、飲食は禁止（但し水分補給は可）等」。参拝者は若い人が多かったが、すれ違うときは例外なく挨拶の言葉を掛け合い、裸足登拝の人に出会うなど御神体山を感じさせられた。山頂の奥津磐座は有数のパワースポットとかで霊気を受ける人の姿も見られる。10 月 22 日の台風後、3 週間の入山禁止中に崖崩れなどの補修工事が成されていた。下山後、襷を返し狭井神社の薬井戸で御神水をいただいた後は皆トイレへ。山の辺の道へ戻り、すぐ先のささゆり園で遅い昼食をとる。ここはササユリを育てる広い公園で大勢が入れる屋根付きの休憩所があり、このコース中唯一の弁当を広げられる場所。

ささゆり園を出発後小雨が降ってきたため雨具を装着した。玄賓庵、檜原神社を過ぎると平坦な山道や集落の中の舗装道路、果樹園や畑の中の道が長く続く。相撲神社 400m の道標を見るが行かず景行天皇陵へ進む。程なく左巻向駅、右景行天皇陵の道標があった所で 3 人の方が巻向駅へ向かわれた。景行天皇陵へは田舎道を 10 分。崇神天皇陵へはさらに 20 分歩く。崇神天皇陵は松がよく手入れされ、緑が美しく印象的だった。目的地までは近いので景色を眺めゆっくり過ごし、JR柳本駅で解散した。

コースタイム

近鉄桜井駅(9:20)～馬井手橋(9:40～9:50)～海柘榴市観音(9:55)～金屋の石仏(10:05)～平等寺（10:15～10:20）～大神神社(10:25～10:45)～狭井神社(10:50～10:57)～中津磐座(11:35～11:40)～三輪山・奥津磐座（12:05～12:15）～狭井神社(13:18～13:30)～ささゆり園・食事(13:35～14:00)～檜原神社(14:25)～JR巻向駅・景行天皇陵分岐（14:55）～景行天皇陵(15：05)～崇神天皇陵(15:25～15:35)～JR柳本駅(15:50)